

NPO の役割は「支援すること」だけなのか ——支援の空白から、新しい地域の仕組みをつくる

NPO 法人宮崎もやいの会は、これまで地域の中で、特に精神障がいのある方々の日中活動支援や自立支援、相談支援に取り組んできました。その一方で、近年は不登校やひきこもりへの支援にも積極的に取り組むようになり、さまざまな生きづらさを抱えるご本人やご家族と向き合いながら、地域の中で活動を続けてきました。それは NPO にとって、とても大切な役割です。

「こうした活動を通して私たちが感じてきたのは、目の前に現れている問題だけを見るのではなく、その背景にある『生きづらさ』や『社会とのつながりの難しさ』に目を向けることの大切さでした。」

活動を続ける中で、私たちは一つの問いを持つようになりました。

「NPO の役割は、困っている人を支援することだけなのだろうか。」

目の前の一人を支えることは大切です。

けれども、同じような困りごとを抱える人が、次から次へと現れるのであれば、その背景にある「社会の仕組み」にも目を向けなければなりません。

なぜ、支援を必要としている人ほど、相談につながらないのか。

なぜ、制度があるにもかかわらず、その制度を利用できない人がいるのか。

なぜ、教育・医療・福祉など、それぞれの支援機関が存在しているのに、その間に取り残されてしまう人がいるのか。

こうした問いから見えてきたのが、私たちが「支援の空白」と呼んでいる場所です。

「相談に来てください」だけでは届かない人がいる

現在、私たちが取り組んでいる不登校支援は、そのことを強く感じさせるテーマの一つです。

不登校になると、学校、教育委員会、教育支援センター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、さまざまな支援につながる道があります。

しかし、すべての家庭が自ら相談に行けるわけではありません。

子どものことで悩みながらも、「どこに相談すればいいのかわからない」「相談すること自体が負担になっている」「周囲に知られたくない」と感じている保護者もいます。

つまり、本当に支援を必要としている家庭ほど、支援機関の窓口に来られないことがあるのです。

そこで私たちは、「相談に来てもらう」のではなく、「支援する側が家庭へ出向く」という発想に立ちました。

学校に来られない子どもを学校で待つだけではなく、その子が暮らしている家庭に支援を届ける。

子どもだけではなく、保護者の話にも耳を傾ける。

必要であれば、医療、福祉、学校、地域の支援機関などにつなぐ。

こうした取り組みを通して、私たちは改めて気づかされました。

支援とは、制度の入口に人を連れてくることだけではない。制度のほうから、人の暮らしに近づいていくことも必要なのだ。

支援の空白にこそ、新しい社会資源の可能性がある

人の困りごとは、制度の境界線に合わせて起こるわけではありません。

「まだ病気とは診断されていない」

「まだ福祉サービスの対象ではない」

「学校との関係が完全に切れているわけではない」

「しかし、家庭では確実に困っている」

そんな状態があります。

制度から見れば「対象ではない」かもしれません。

けれども、その人の暮らしから見れば、明らかに「支援が必要」なのです。

私たちは、こうした場所を「制度の谷間」「支援の空白」と捉えています。

そして、この空白は、単に問題が存在する場所ではありません。

新しい社会資源を生み出す可能性がある場所でもあると考えています。

家庭に出向くこと。

訪問看護の専門性を活用すること。

子どもだけではなく家族全体を支えること。

教育・医療・福祉・行政・地域をつなぐこと。

専門職を育てること。

そして、現場で得た経験を行政や地域社会に伝え、新しい支援の仕組みを提案すること。

これらは、最初から完成された制度として存在していたものではありません。

現場で「こんな支援が必要なのではないか」と考え、一つずつ試しながら形にしてきたものです。

「支援するNPO」から「仕組みをつくるNPO」へ

宮崎もやいの会が目指しているのは、支援を必要とする人を一人でも多く支えることだけではありません。

もちろん、一人ひとりへの支援はこれからも大切にしていきます。

しかし、その支援の中から見えてきた課題を、そのままにしないことも私たちの役割だと考えています。

一人の家庭を支援する。
そこで課題を発見する。
実践してみる。
何がうまくいき、何が足りなかったのかを検証する。
その経験を整理する。
誰でも活用できる方法として体系化する。
支援できる専門職を育てる。
地域の中で実践する人を増やす。
そして、必要であれば行政に提案する。
こうした流れをつくるのが、私たちの目指す NPO の姿です。
言い換えれば、
「支援する NPO」から「支援の仕組みをつくる NPO」へ。
さらに言えば、
「社会の課題に対応する NPO」から「社会の仕組みそのものに問いを投げかける NPO」へ。
それが、これからの宮崎もやいの会が目指す方向なのかもしれません。

先駆性とは、「まだないもの」をつくること

先駆的な活動という、何か特別に新しいことをすることだと思われるかもしれませんが。

しかし、私たちが考える「先駆性」は、少し違います。

それは、まだ制度になっていない課題に目を向け、まだ十分に存在していない支援の形を、現場からつくっていくことです。

誰も相談に来ないなら、こちらから出向く。

制度につながらないなら、その理由を考える。

一つの専門機関だけでは支えられないなら、機関同士をつなぐ。

一人の専門職だけでは限界があるなら、その支援ができる人を育てる。

そして、現場で見つけた課題を社会に問いかける。

その積み重ねの先に、新しい地域の支援モデルが生まれていくのだと思います。

「制度を待つ」のではなく、「地域から未来をつくる」

私たちは、制度の重要性を否定しているわけではありません。

むしろ、制度によって多くの人が支えられていることを理解しています。

だからこそ、制度が届かない人がいるとき、その空白を見過ごさないことが大切なのだと思います。

現場には、制度が追いついていない課題があります。

その課題を見つけ、実践し、検証し、モデルとして示し、行政や地域社会に提案していく。

それは NPO だからこそできる役割の一つではないでしょうか。

宮崎もやいの会が目指しているのは、単に「困っている人を助けること」ではありません。

「困っている人が、困り続けなくてもよい地域をつくること」です。

そのために、目の前の一人に寄り添いながら、その一人の後ろにいる「まだ支援につながっていない人」のことも考える。

そして、一つの家庭で得られた気づきを、地域全体の支援のあり方へとつなげていく。

課題発見から、実践へ。

実践から、仕組みへ。

仕組みから、人材育成へ。

人材育成から、地域へ。

そして、地域から社会の変化へ。

これが、私たち宮崎もやいの会が歩んでいきたい道です。

まだ名前のついていない課題に目を向ける。

まだ形になっていない支援を試してみる。

そして、いつの日か、それが「特別な支援」ではなく、地域の当たり前前の支援になっていく。

制度が整うのを待つのではなく、地域の現場から未来の支援をつくる。

そこに、NPO 法人宮崎もやいの会が果たすことのできる役割があるのではないかと、私たちは考えています。

ともに、つながり、
生きる力を育む地域へ。

宮崎もやいの会
特定非営利活動法人

ひとりを支え、みんなで作る、
誰も取り残されない社会

宮崎もやいの会は、子ども・若者から高齢者まで、さまざまな生きづらさを抱える方々とともに歩み、支援の実践を通して、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指すNPOです。
一人ひとりに寄り添いながら、支援の空白に目を向け、現場から新しい支援の仕組みをつくり、地域の未来につなげていきます。

どんな時も、
ひとりではない。

このまちで、
ともに生きる

支える。つなぐ。
そして、未来をつくる。

支えあう人がいる。
つながる場所がある。
きっと、未来はひらける。

＼ 4つの視点で、支援と地域づくりを進めています ／

寄り添う
一人ひとりの想いに
耳を傾ける
困りごとや不安に寄り添い、
その人らしい生き方を
一緒に考えます。

届ける
支援が必要なおくへ
出向く
相談に来てもらうだけでなく、
家庭や地域に出向き、
必要な支援を届けます。

つなぐ
制度や人、地域をつなぐ
医療・福祉・教育・行政・
地域など、さまざまな機関を
つなぎ、切れ目のない支援を
つくり出します。

つくる
新しい支援の仕組みを
地域へ
現場での経験をもとに、
支援方法を体系化し、
人材を育て、地域全体の
支援力を高めていきます。

こんな活動を行っています

不登校・ひきこもり支援
家庭への訪問支援、家族支援、学びの場づくり など

相談支援
子ども、若者、保護者、高齢者などの相談対応

支援者の育成
訪問看護師などを対象とした養成講座・研修

地域づくり・政策提言
現場からの課題提起と、新しい支援の仕組みづくり

小さな支援が、
未来を変える力になる。

宮崎もやいの会が目指すこと

困っている人を助けるだけでなく、
「困っている人が、困り続けなくてもよい地域をつくる」こと。
支援の実践から学び、仕組みをつくり、人を育て、地域から社会の変化へ。
宮崎もやいの会は、これからも挑戦を続けていきます。

人を
支える

地域を
つなぐ

未来を
つくる

ともに、
よりよい社会を
つくっていきませんか。

特定非営利活動法人
宮崎もやいの会
ひとりを支え、みんなで作る、誰も取り残されない社会

〒880-0865 宮崎市松山1丁目6-7 (支援センターかぶえらで内)
TEL : 0985-71-0036
http://www.m-moyai.com/index.html